

がっこうとともだち！給食だいすき！

弥富市立弥生小学校 栄養教諭 田中 絵美子

本校は、単独調理場方式で給食を作っています。給食時間が近づくと、だしをとる香り、給食の香りが教室にも届き、子どもたちは給食時間を楽しみにしています。しかし残食に目を向けると、煮物や魚などの献立は残食が目立ちがちで苦手な食べ物にはなかなか手が出ない子も少なからず見受けられます。そこで作り手の苦労や思いを伝えることで感謝の気持ちをはぐくみ、残さず食べようという気持ちをもたせられるよう指導を行っています。

1 まかせて！ぼくがわたしが調理員さん！

1年生は、給食室と同じフロアにありながら、衛生上の制限からどのようにして給食が作られているかを直接見ることができません。そこで、生活科の「がっこうとともだち」という単元で給食室について紹介しています。本校が研究を進めているキャリア教育とも関連づけ、学校で働く人々とその仕事に気づくこと、そして調理員の仕事を知り、感謝の気持ちをもつことをねらいとして指導を行いました。

授業の中では、調理擬似体験として、大きなざるに野菜を入れて持ち上げてみたり、釜の大きさをフラフープを使って体感してみたり、ひしゃくで水をくんで移し替えたりしました。子どもたちからは、「重たいね・・・」「調理員さんはこんな大変なお仕事なんだね。」という感想が聞かれました。また、給食を作り終わったばかりの調理員さんにゲストティーチャーとして登場してもらい、給食を作る上で大変なことやこの仕事の喜びについて教えてもらいました。子どもたちからは、自分たちができることとして、「残さず食べたい。」「一生懸命作ってくれた給食だから、みんなで完食したい！」という声があがりました。



【給食を食缶につける体験】

2 弥生小学校の残食は・・・



【給食委員会による集会】

給食委員会の常時活動として、給食の残食調べを行っています。このまとめとして、給食集会を実施しました。私たちの体は、食べ物によって作られていること、食べ物によって生かされていることを知らせたり、学校全体の残食量、そしてその残食はどうなってしまうのかを発表したりしました。

弥生小学校の残食量は、1学期だけで511kgあり、これは茶碗に換算すると3407杯分もあったことを伝えると、子どもからは驚きの声があがりました。そして、この残食がごみになってしまうことを伝えると、「もったいない。」「一生懸命作ってくれているのだから残さず食べたい。」という思いを口にしていました。

集会後には残食ゼロ週間を行いました。

1人1枚の振り返りチェックシートを使用することで、残さず食べようという意欲を高めることができ、給食の残食量も大きく減少しました。

このような啓発活動を継続し、調理員さんや農家の方の思いを子どもたちに伝えていきたいと思います。

3 おわりに

食べることは、生きていく上で欠かせないことです。栄養バランスのよい食事は、体の栄養となりますが、楽しい食事は心の栄養となると思います。今後も子どもたちが、たくさんの笑顔で給食時間を過ごし、豊かな体と心を育めるように支援していきたいと思ます。

★残食ゼロ週間★

		年 組 名前	
	あてはまるのに色をぬろう!		
12月14日(月)	  	マークの歌	 ...残さず食べた!..  ...はじめに食べられる量にしてから残さず食べた!..
12月15日(火)	  		 ...残した!..
12月16日(水)	  	先生のサイン	~感想~
12月17日(木)	  		
12月18日(金)	  		

【振り返りチェックシート】